

ヤクルト サステナビリティストーリーズ



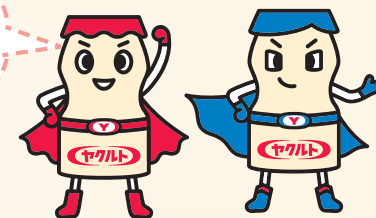
人も地球も健康に

Yakult

ヤクルトってどんな会社？

ヤクルトの事業は、ライフサイエンスを基盤に、「ヤクルト」などの乳酸菌飲料を含む食品から、化粧品、医薬品、国際事業へと拡大しています。

「ヤクルト」以外にも
つくっているよ！



食品事業

乳酸菌飲料「ヤクルト」やはっ酵乳「ジョア」などの乳製品、清涼飲料も製造しています。



国際事業

日本を含む、世界40の国と地域で「ヤクルト」を販売しています。

ライフサイエンス

ヤクルトの事業の基盤には、
ライフサイエンス(生命科学)が
あります。



医薬品事業

乳酸菌研究を基盤とし、医薬部外品や一般用医薬品などを販売しています。



化粧品事業

乳酸菌培養液の美容的有効性を活用した
オリジナル成分配合の化粧品を販売しています。

「ヤクルトサステナビリティストーリー」は、ヤクルトの取り組みについてわかりやすくまとめたものです。詳しい情報やデータについては、下記のサイトをご覧ください。

サステナビリティサイト

<https://www.yakult.co.jp/company/sustainability/>



サステナビリティレポート

<https://www.yakult.co.jp/company/sustainability/download/>





ヤクルトの誕生とサステナビリティ



代田 稔

ヤクルトの創始者である代田 稔が医学を志し、京都帝国大学(現在の京都大学)に入学したのは1921年。当時の日本は、衛生状態の悪さから感染症で命を落とす子どもたちが数多くいました。代田は、病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないようにする「予防医学」こそが重要と考え、微生物の研究を重ね、「乳酸菌 シロタ株」を生み出しました。そして、この乳酸菌を多くの方に届けるため、有志とともに安価でおいしい乳酸菌飲料として製品化、「ヤクルト」が誕生しました。一人でも多くの方に健康になっていただきたいという当時の想いは、今もヤクルトの事業に受け継がれています。

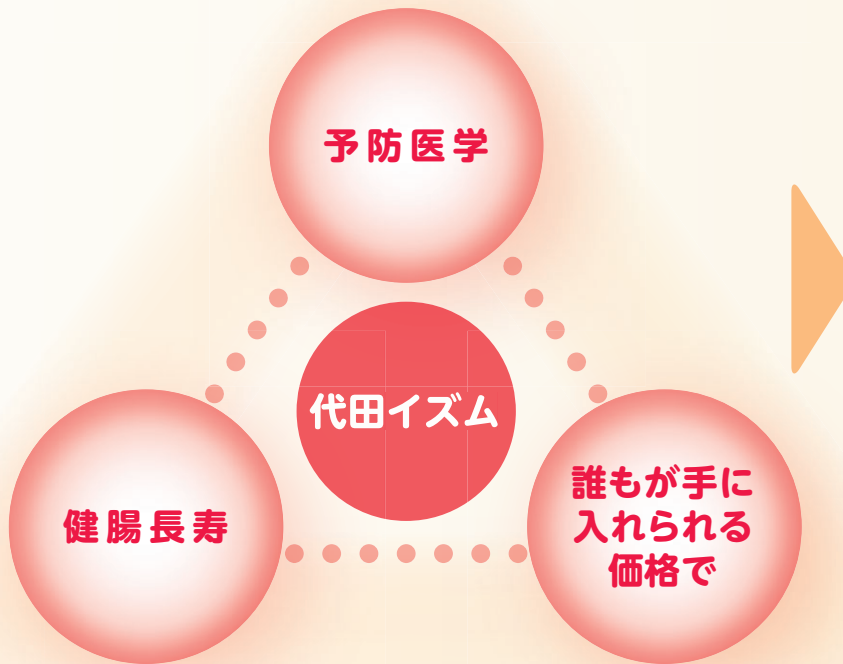
創始者 代田 稔の想い

……………<企業理念>……………

私たちは、
生命科学の追究を基盤として、
世界の人々の
健康で楽しい生活づくりに
貢献します。

コーポレートスローガン

人も地球も健康に



3 すべての人に
健康と福祉を

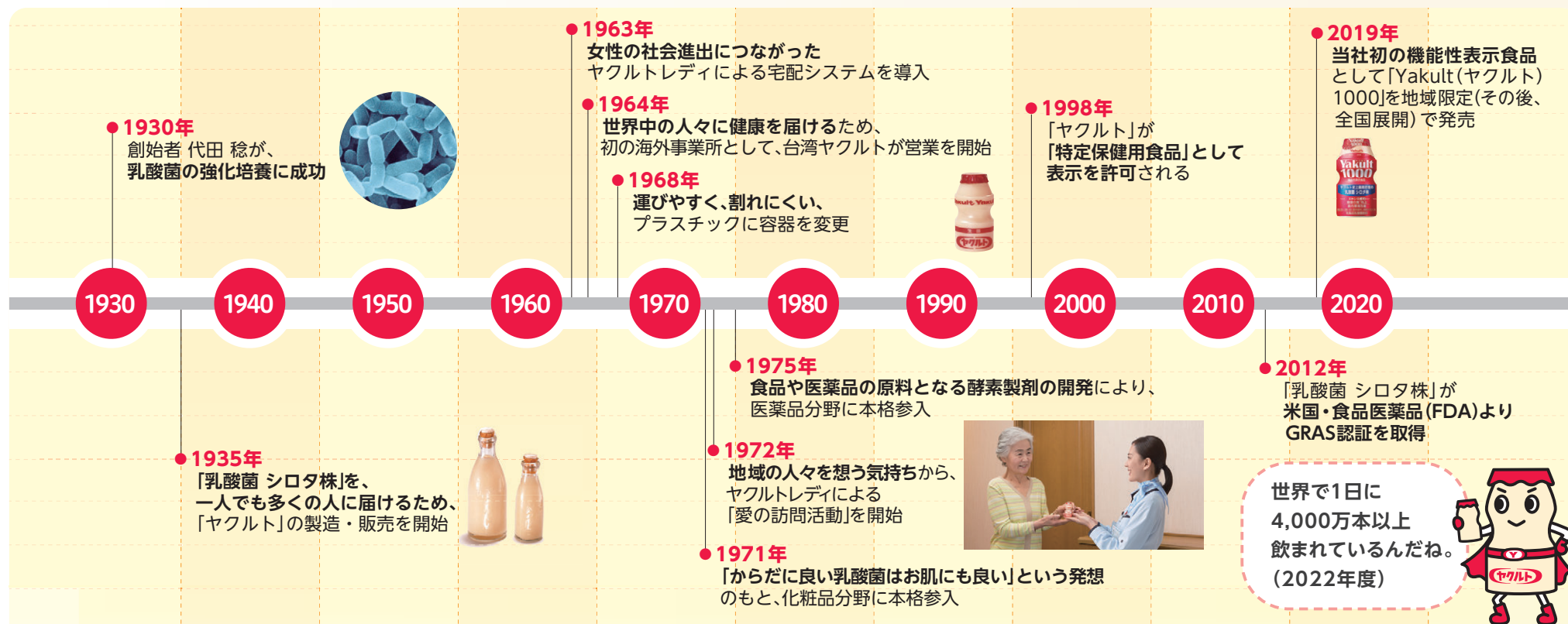


ヤクルトの
理念・事業活動は
SDGsの考え方、
および目標3と
合致している。

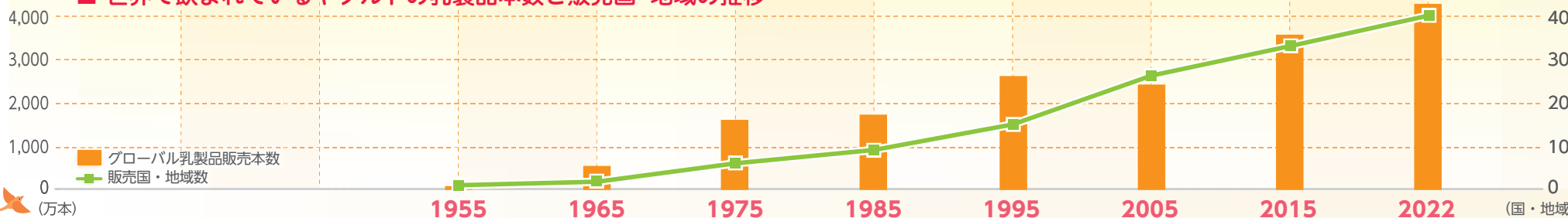


ヤクルトの発展とサステナビリティ

ヤクルトグループは創業時から、世界の人々に健康をお届けする「ヤクルト」の製造・販売、女性の活躍の機会を拡大するヤクルトレディの活動等を通じて、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいます。



■ 世界で飲まれているヤクルトの乳製品本数と販売国・地域の推移



※ 統計は1955年から





ヤクルトの未来をつくる「人」

人の手に支えられているヤクルトグループの事業活動

ヤクルトグループの事業活動は、さまざまな人々の手に支えられています。これらのヤクルトの事業に関わるすべての人がヤクルトの未来をつくり、世界中の人々と地球の「健康」に貢献していきます。

研究・開発

腸内細菌や有用微生物などを研究する人

人々の健康と予防医学の普及・発展のため、研究成果を商品開発に生かしています。

P10 >>>

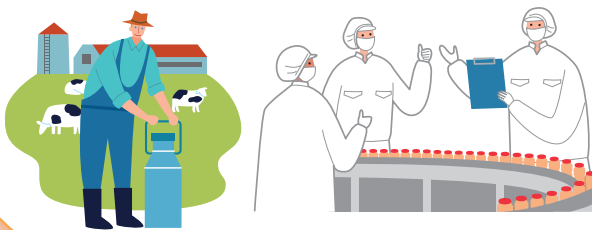


調達・生産

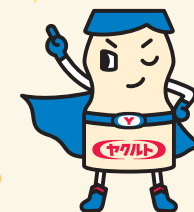
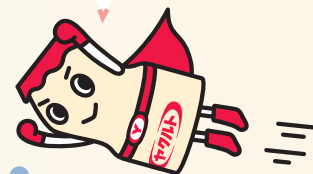
「ヤクルト」の原材料を仕入れ、生産をする人

「安全・安心」で高品質な商品をお届けするために、厳しい品質基準に基づいた商品を生産しています。

P11、12 >>>



バリューチェーンを通じて、さまざまな人々がヤクルトを支えているよ



物流

「ヤクルト」を運ぶ人

冷蔵商品を輸送するため、温度管理を徹底して全国に輸送しています。

P13 >>>



販売

「ヤクルト」を届ける人

商品と健康情報を、真心を込めてお届けしています。

P14 >>>



お客さま

「ヤクルト」を待っている人々

現在、世界40の国と地域で事業を展開しています。今後も一人でも多くの方にお届けします。

P16 >>>



地球の未来に貢献するマテリアリティとSDGs

ヤクルトが社会に与えるインパクト

人が健康であるためには、環境や社会等、人を取り巻くすべてのものが健康でなければならないという、コーポレートスローガン「人も地球も健康に」は、SDGsの目指すところと同じです。

社会課題の解決にプラスの影響を与えるよ。



ヤクルトの国内外の特許保有件数

約**1,000**件



イノベーション

ヘルスケアカンパニーへの進化、菌の科学性の追究、新商品・サービスの提供、資源の有効活用などの取り組みを通じてイノベーションを推進します。

愛の訪問活動でヤクルトレディがお宅を訪問している高齢者数

約**34,000**人



地域社会との共生

地域に密着したつながり、健康情報のお届け、「安全・安心」な健康商品の提供などの取り組みを通じて地域社会との共生を推進します。

CSRリスク管理を実施しているサプライヤーの割合

約**90**%
調達額上位90%の
サプライヤーに実施



サプライチェーンマネジメント

取引先との健全なつながり、CSR調達の推進、原材料の安定調達などを通じてサプライチェーンマネジメントに取り組みます。



地球の未来に貢献するマテリアリティとSDGs

ヤクルトが環境に与えるインパクト

グローバルに事業を展開する中で、地球環境にマイナスとなる影響を与えてきました。この影響を小さくする取り組みを一步ずつ進めています。

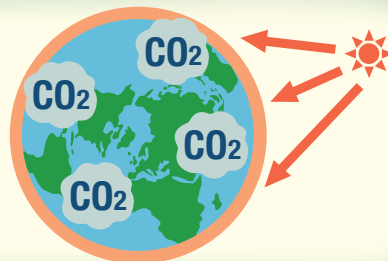
地球環境へのマイナスの影響を最小化するよ。



温室効果ガス排出量

468,237t

※ 2022年度実績(ヤクルト本社(物流含む)、生産子会社5社、国内スコープ1・2・3の合計値)



気候変動

再生可能エネルギーの積極的導入、省エネ活動への取り組みなどを通じて温室効果ガス排出量を削減します。

41.5%削減(国内スコープ1・2 2018年度比)

プラスチック使用量

18,341t

※ 2022年度国内実績



プラスチック容器包装

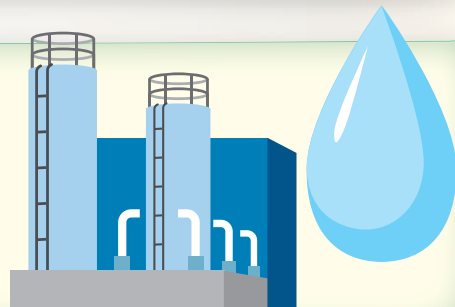
資源循環できる容器包装への転換、容器包装の素材変更による環境負荷低減などの取り組みを通じてプラスチック使用量を削減あるいは再生可能にします。

24.1%増加(国内使用量 2018年度比)

水使用量

6,145千t

※ 国内外の生産拠点/数値は2022年度実績



水

持続可能な水資源の使用、水使用量削減への取り組みなどを通じて、水資源を保全します。

13.9%削減(国内工場/生産量原単位 2018年度比)

※ 削減率は、環境アクション(2021-2024)の実績



地球の未来に貢献するマテリアリティとSDGs

6つのマテリアリティとSDGs

ヤクルトグループの事業活動はSDGs17目標の達成に広く関わりますが、中でも「3 すべての人に健康と福祉を」の目標は、企業理念の実現を目指す、ヤクルトの事業そのものです。また、当社グループが特定した「マテリアリティ(重要課題)」に関わりが深いSDGs目標は右の8つと捉えています。今後も、マテリアリティの取り組みを推進することで、SDGs達成に貢献していきます。

マテリアリティへの対応でSDGs達成に貢献するよ。



地球の未来に貢献するマテリアリティとSDGs



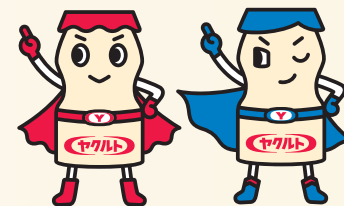
ヤクルトグループ環境ビジョン

ヤクルトグループは、2021年3月、人と地球の共生社会の実現を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」を策定しました。

地球環境へのマイナスの影響を減少させ、プラスの影響を与える取り組みを推進していきます。



People and Planet as One
ヤクルトグループ環境ビジョン






環境ビジョン2050

「人と地球の共生社会を実現するバリューチェーン環境負荷ゼロ経営」

2050年までに温室効果ガス排出量ネットゼロ（スコープ1・2・3）を目指します。

環境目標2030

「環境目標2030」は「環境ビジョン2050」を実現するために、環境面の3つのマテリアリティについて定めた中期的マイルストーンです。

マテリアリティ(重要課題)	目標
 気候変動	温室効果ガス排出量(国内スコープ1・2)を2018年度比 30%削減 する
 プラスチック容器包装	プラスチック製容器包装(国内)を2018年度比 30%削減 あるいは 再生可能 にする
 水	水使用量(国内乳製品工場：生産量原単位)を2018年度比 10%削減 する

環境アクション(2021-2024)

「環境アクション」は「環境目標2030」を達成するための短期的マイルストーンとして決めました。環境面のマテリアリティに加え、「廃棄物」「生物多様性」に関する目標も定めています。



事業活動を通じたSDGsへの貢献

ヤクルトグループは、その事業のバリューチェーンの各段階でSDGsの達成に貢献しています。



研究・開発

予防医学や健康長寿に貢献する研究開発に取り組み、研究成果を食品・医薬品・化粧品へと応用しています。

中央研究所 化粧品研究所 副指導研究員 山口 るみ

乳酸菌と力を合わせて、お肌の健康に貢献できる研究に励んでいます！



ヤクルトの課題

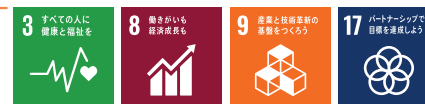
- 人々の健康意識の変化や高まりに応える
- 知的財産の投資・活用を事業戦略へ組み込む

人々の健康に役立つ研究・開発を進めているよ



ヤクルトの取り組み

貢献するSDGs



■ 生命科学を基礎としたプロバイオティクス研究

中央研究所を中心に、プロバイオティクスからヘルスケア事業の領域まで、さまざまな研究に取り組んでいます。2019年に、時代の健康価値に則した商品「Yakult(ヤクルト)1000」を発売しました。



Yakult (ヤクルト) 1000

■ 外部機関との共同研究

国内外の大学・公的研究機関との共同研究など外部機関との研究開発にも、積極的に取り組んでいます。



中央研究所

■ 知的財産活動

研究開発によって生み出された新製品・新技術に関する知的財産権(特許権、意匠権、商標権等)の取得を国内外で積極的に推進し、自社ブランド価値の維持・向上に努めています。

世界各国・地域で商標「Yakult」等について権利を取得するとともに、トレードマークであるヤクルト容器の形状について、日本、米国などで立体商標として権利化しています。

研究・開発

調達

生産

物流

販売

お客さまのもとへ



事業活動を通じたSDGsへの貢献



サプライヤーの皆さんと
共に持続可能な調達に
取り組んでいます!



調達部 原料課 主任 黒田 美翔

調達

サプライヤーと協力して、脱脂粉乳・砂糖・包装資材等の原材料を公正に調達しています。

ヤクルトの課題

- 企業のCSR 調達を推進する
- サプライチェーン全体でのCSR意識を浸透させる

持続可能な調達
を推進するよ



ヤクルトの取り組み

貢献するSDGs



■ サプライヤーリスク管理

ヤクルトグループは、国内外のサプライヤーに対して、サステナビリティに関する自社の取り組みを評価する「CSR調達アンケート」を実施しています。

2022年度からは、自社評価ができる国際的なシステム「Sedex」も活用して、サプライチェーン上のリスク管理を実施しています。

■ サプライヤー向け説明会

サプライヤーの皆さまに、当社の「CSR調達方針」への理解、協力を依頼するとともに、サステナビリティに貢献する取り組みの重要性についての意識啓発に取り組んでいます。



サプライヤー向けCSR調達方針説明会の様子

■ 「調達活動における森林破壊・土地転換ゼロコミットメント」の策定

サプライチェーンから森林破壊をなくすことを目指しています。



調達活動における「森林破壊・土地転換ゼロコミットメント」解説動画

研究・開発

調達

生産

物流

販売

お客さまのもとへ





事業活動を通じたSDGsへの貢献

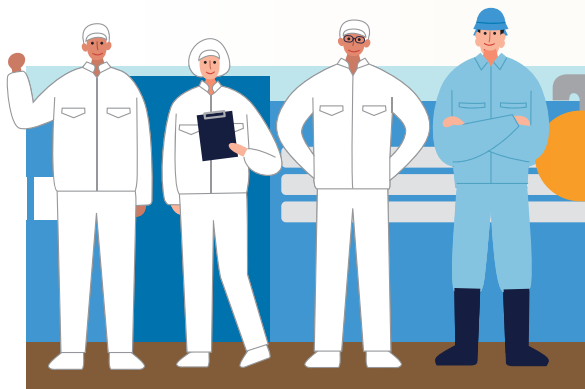
エネルギーを必要な時に必要な分だけ大切に使用して生産しています!



生産

原材料・エネルギー・水資源を効率的に利用するなど、環境にやさしい方法で安全・安心・高品質な商品を生産しています。

茨城工場 施設管理課 主任 木村 貴寛



ヤクルトの課題

- 環境負荷を低減した生産体制を構築する。
- 「安全・安心」な商品を提供する。
- 従業員の労働安全衛生を整備する。

環境に配慮しながら、働く人にもやさしく生産しているよ



ヤクルトの取り組み

■ 「安全・安心」な商品の生産

世界各地で「安全・安心」な商品をお届けするため、徹底した品質管理および安全性について明記した「品質基本方針」に則した生産を行っています。



貢献するSDGs



■ 環境負荷を低減した生産体制

日本国内の13工場においては、生産工程で使用する電力をすべて実質的に再生可能なエネルギーへ切り替えました。生産工程の見直しによる水使用量の削減や、乳製品の受注生産による食品ロスの削減にも努めています。

■ 従業員の労働安全衛生環境の整備

ヤクルトグループの国内外の各工場は、各国・地域の法令に基づき、社員の災害事故防止と生命・身体を保護し、日常的に安心して働ける労働環境の確立に向けて活動しています。

日本では、定期的に安全衛生巡視を実施し、設備の改善に取り組むほか、安全衛生教育を実施しています。中国ヤクルトグループでは法令に従い、安全生産研修、自主検査を実施しました。

研究・開発

調達

生産

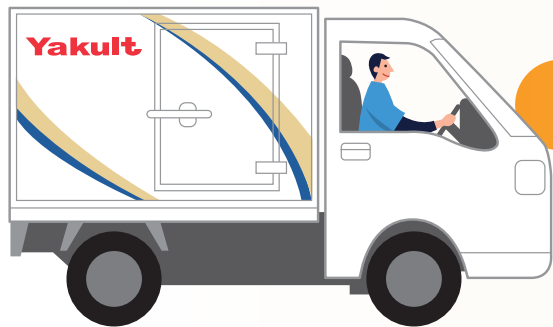
物流

販売

お客さまのもとへ



事業活動を通じたSDGsへの貢献



物流

エコドライブを徹底し、環境負荷が少ない輸送方法を選択することで、商品輸送時のCO₂排出量を削減しています。

地球環境にやさしい物流の仕組みや体制づくりに積極的に取り組んでいます！



物流統括部 管理課 係長 中山 拓

ヤクルトの課題

- 環境負荷を低減した物流網を構築する。
- 従事者の労働環境を整備する。



「ヤクルト」を運ぶときのCO₂を減らすよ

ヤクルトの取り組み

貢献するSDGs



■ モーダルシフトの推進

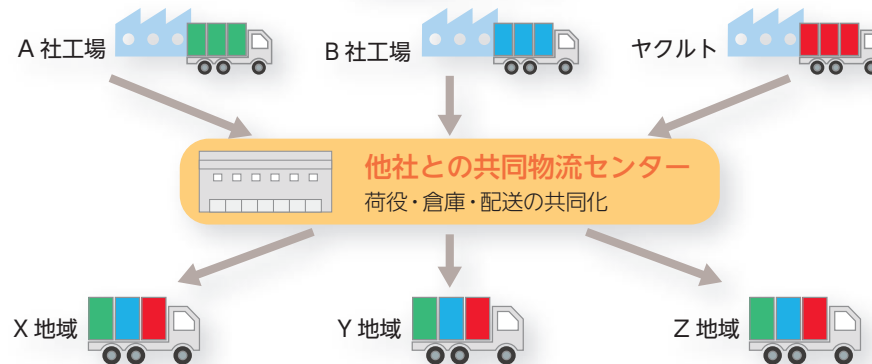
環境負荷の低減を考慮し、貨物輸送に鉄道や船を利用するモーダルシフトを推進しています。トラック輸送のCO₂排出量と比較すると、鉄道輸送は10分の1、海上貨物輸送は5分の1です。



■ 他社との共同配送

他社メーカーとの共同配送(荷役・倉庫・配送の共同化)を推進し、物流効率化とCO₂排出量削減を図っています。

共同配送のイメージ



研究・開発

調達

生産

物流

販売

お客さまのもとへ





事業活動を通じたSDGsへの貢献



販売

商品とともに、商品の正しい知識や健康に役立つ情報をお客さまにお届けしています。

商品のお届けのみならず、健康情報の提供にも力を入れています!



宅配営業部 宅配企画課 係長 立石 拓也

ヤクルトの課題

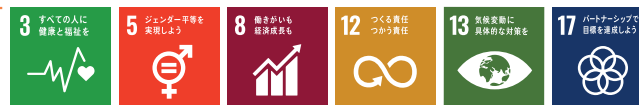
- 一人でも多くの人々に健康をお届けする。
- 地域の「安全・安心」へ貢献する。

世界の人々に健康と笑顔をお届けするよ



ヤクルトの取り組み

貢献するSDGs



■ 健康に寄与する商品のお届け

ヤクルトレディは、おなかの健康に寄与する商品のお届けとともに、お客さまにその特性をきちんとお伝えし、理解していただくことを大切にしています。また、健康に関する情報も合わせてお伝えすることで、お客さまの健やかな生活づくりに貢献しています。

■ 「出前授業」「健康教室」の実施

販売会社の社員が、主に小学生向けに行う「出前授業」。腸の大切さや「よいうんち」を出すための生活習慣について分かりやすく説明しています。大人向けには、プロバイオティクスなどの健康情報をテーマにした「健康教室」を開催しています。国内外で活動の輪が広がっています。



健康教室(インドネシアヤクルト)

■ 「愛の訪問活動」等、地域貢献活動の実施

ヤクルトでは、1972年から商品をお届けしながら一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、話し相手になる「愛の訪問活動」を実施しています。また、自治体や警察等と連携した地域の見守り防犯協力活動にも協力し、地域の「安全・安心」に貢献しています。



愛の訪問活動

研究・開発

調達

生産

物流

販売

お客さまのもとへ

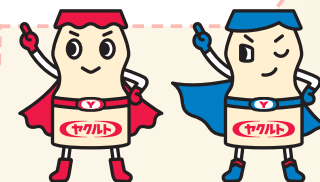


全社でのサステナビリティの取り組み

ヤクルトサステナビリティキャンペーン

ヤクルトグループは、全従事者がサステナビリティ・CSR活動の推進者となるよう、さまざまなアプローチで意識の浸透を図っています。1994年度からグループ全従事者を対象に実施している「ヤクルトサステナビリティキャンペーン」について紹介します。

ヤクルトグループ全体でサステナビリティに取り組んでいるよ

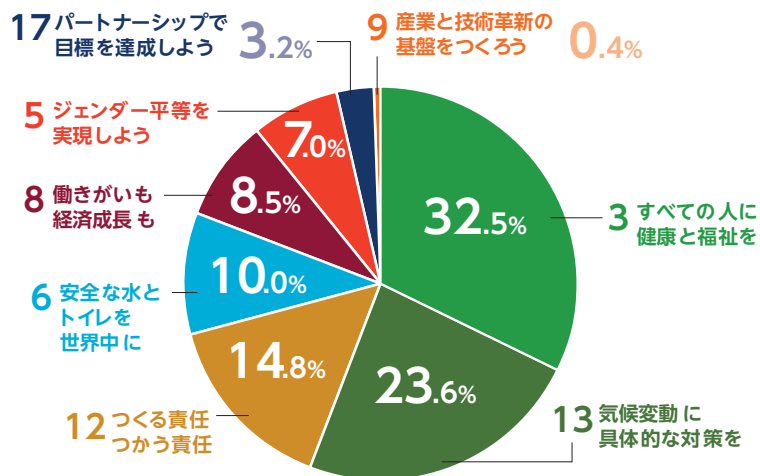


2022年度の取り組み

1 一人ひとりのSDGs行動宣言

ヤクルトグループと関わりの深い8つのSDGs目標から、自分の業務をとおして貢献できる「SDGs行動宣言」を募集。参加者の宣言に対する取り組みをポイント化して金額換算し、特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画WFP協会に寄付しました。34,406人の応募、寄付金総額は845,000円でした。

※ 特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会：2030年までに飢餓のない世界を目指して活動する国連の唯一の食料支援機関であるWFPを支援する団体



2 グループみんなのサステナビリティ行動宣言

グループ内の各事業所から、サステナビリティに関する取り組みを推進するための宣言を募集しました。124事業所の応募の中から投票により、ヤクルトグループの行動宣言が決定しました。

人と地球のために、今行動しよう!
Let's act now for people and planet.

● その他の取り組み

- ▶ 「環境アクション(2021-2024)」の取り組みとして、工場等において植樹活動等を実施しました。
- ▶ 公益財団法人オイスカの「子供の森」計画へ、10万円の支援金を贈りました。





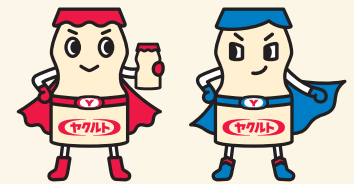
明日へのビジョン

マテリアリティへの取り組みを通じて、持続的な成長を目指します

私たちの事業の出発点は、創業当時の日本における健康に関する社会課題の解決でした。時代の変化とともに、健康に対する考え方も多様化し、社会課題も大きく変わっています。

ヤクルトグループは、この変化に対応するため、2021年に長期ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」を策定しました。

マテリアリティへの取り組みを通じて、社会課題の解決に貢献し、企業理念の実現に向けた活動を推進していきます。



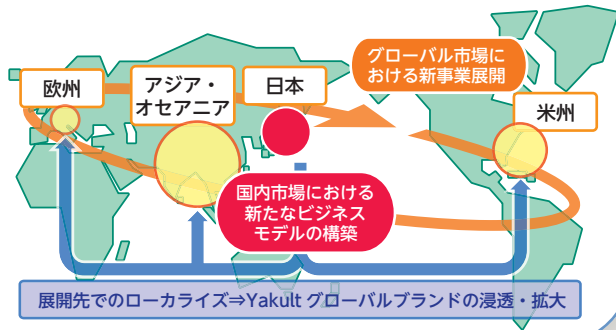
Yakult Group Global Vision 2030

目指す姿

世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化

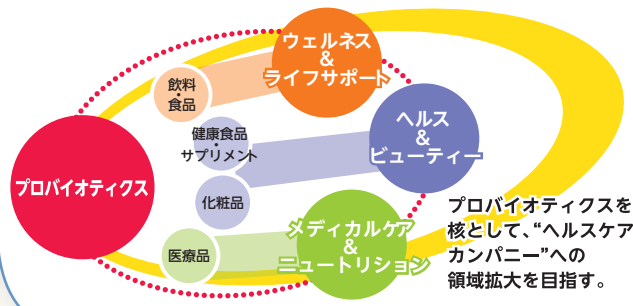
世界の一人でも多くの人々に健康をお届けする

重点テーマ グローバル展開の強化



一人ひとりに合わせた「新しい価値」をお客さまへ提供する

重点テーマ 事業領域の拡大



人と地球の共生社会を実現する

重点テーマ 環境課題への対応



People and Planet as One
ヤクルトグループ環境ビジョン

P9 >>>

